緑区東部地域散策コース 史跡・文化財・道しるべなど散策案内

◎西 パノラマ展望の滝の水公園コース　約8km 2.5時間

JAみどり本店→豊藤稲荷神社→新海池公園→滝の水公園→諏訪社→弘法堂

❶豊藤稲荷神社(とよふじいなりじんじゃ)(緑区作の山町１８０番地)TEL 052-891-0002
嘉永４年(1851)朝日山と称した小高い丘に創建された。倉稲魂命(うかのみたまのみこと)・猿田彦命・大国主命・事代主命を祭神とし、伏見稲荷を勧請したお社で招福除災・財福の神様である。昭和30年(1955)頃は山の中の一軒家であったが、今は住宅地に囲まれている。昭和53年(1978)に近代建築の社殿にし、稲荷では県下有数の建造物である。境内に奥藤大神社、秋葉社などの末社・社務所・神社会館があり、沢山の絵馬が奉納されている。

❷新海池(にいのみいけ)新海池公園(緑区鳴海町池上)
緑区には江戸時代各地にため池が造成され(昭和52年調査時には114ヶ所で面積85万㎡)、寛永11年(1634)頃には一度に12の池が完成した。周囲1,685m、面積10万㎡は緑区内で最も大きい。新海五平治が尽力して藩の許可を取り造成して名がついた。大正時代には水田87万㎡に用水を供給し、灌漑・調整用に重要な役割を果たした。近年池の一部を埋立て公園として整備された。

●鳴子町と鳴子団地(なるこちょうとなるこだんち)(緑区鳴子町1～4丁目)
鳴海町北部の雑木林の丘陵地帯を開発し、旧日本住宅公団が昭和35年(1960)に着工した鳴子団地に37年夏から41年春にかけて入居が始まった。小学校・中学校も設置されて一時は二千戸を超す市内有数の団地となった。周辺に一戸建て住宅やマンション社宅などが建てられて一大住宅地となった。昔は忘帰園という梅林があり、地元の人の憩いの場所で鳴子池に因んで名付けられた。

❸藤川と鳴子池(藤川池)(ふじかわとなるこいけ)(緑区と天白区の境界)
長さ約3kmの藤川は野並と古鳴海の間を流れ天白川へ合流している。水源は戸笠池と螺貝池で、中流に鳴子池がある。享保10年(1725)に造られた溜池で約1.8万㎡であったが、今は1/3位になり、一部は市バスの野並車庫になっている。この池は「尾張徇行記」や「愛知郡村邑全図」などでは鳴古池とある。

❹螺貝池(ほらがいいけ)(緑区相川三丁目)
鳴海の灌漑用池は寛永年間(1624～44)に造られた池(新海池、琵琶ケ池等)が多い中で、正徳５年(1715)春に造られた。鳴子池と同じく新しい池である。約2.1万㎡あったが、近年一部が公園に整備された。

❺戸笠公園(とがさこうえん)(緑区鳴海町螺貝、天白区久方三丁目)
相生山団地の南に戸笠池を中心に約9万㎡の緑地がある。池では遠くから飛来する渡り鳥を見ることができ、東岸は水草が生い茂り、カイツブリやカルガモなどの繁殖地になっている。元は江戸時代に戸部村・笠寺村の溜池で、天白川の下に樋を潜らせ南区の方へ灌漑用水を流したのが戸笠池の名の謂れである。現在は雨水の調整池で芝生広場・野球場・テニスコート・ベンチなどが整備されて釣りも楽しめる。

❻滝の水公園(たきのみずこうえん)名古屋薬学専門学校跡地(緑区篠の風三丁目)
人工的な高台にある公園で一面芝生に覆われ、展望台があり、360度のパノラマ景観が楽しめるほど見晴らしが良く、整備された花壇が多くある。初日の出の名所としてよく知られている。この地にあった私立愛知薬学校は山中の黒石に鳴海の大地主が土地を寄付して昭和６年４月に開設された。昭和７年鳴海駅よりバスが運行し、昭和11年専門学校となり、戦後名古屋市立大学薬学部になった。現在は他所に移転し、滝の水公園・税務大学校地となり、公園の西隅に「名古屋薬学専門学校跡」の記念碑がある。

❼融傳の泉の碑(ゆうでんのいずみのひ)融傳塚(緑区神沢三丁目　神沢南公園内)
「尾張名所図会」や「張州府志」に次の言い伝えが書かれている。昔東郷町祐福寺の第四世融傳永乗が信仰していた熱田神宮に参る道すがら一匹の狼が現れ大きな口を開けて和尚に向かってきた。良く見ると喉に骨がつかえて苦しんでいる。それを取り除いたら狼は喜んで山中へ姿を消した。その後和尚がいつもの山越えのとき急に喉が渇き錫杖で地面を叩くと清水が湧出し喉を潤すことができた。その後この清水が道行く人々に大変喜ばれ融傳の泉として石碑が建った。石碑は近年の住宅開発中元の場に近い神沢南公園の北側に新しく台座を設けて建立された。開発前までは融傳塚・融傳道・融傳池と融傳と関わりある史跡があったが、今は何も残っていない。

❽滝ノ水緑地(たきのみずりょくち)(緑区滝ノ水二丁目)
昭和54年167万㎡の72%が山林の滝ノ水土地区画整理組合が発足して小学校2・中学校1・保育園1・緑地・小公園を含めた高級住宅地の開発を行った。滝ノ水緑地として小さな池と山林を残し、自然が保たれている。元はこの辺りに小さな2段滝があって滝ノ水という地名がついたと言われる。

●相原郷の集落(あいはらごうのしゅうらく)(緑区相原郷地内)
慶長13年(1608)備前検地後に鳴海村より独立した村で、旭出川より東の山寄りに在る。古鳴海と二村山の中間に位置する鳴海藍の原に由来する鎌倉海道沿いに古くから開けた集落である。明治9年(1876)平手新田と一緒に鳴海村の小字となる。近くに石神堂公園があり、農民の立像「豊穣の里」の碑がある。

❾緑スポーツセンター(みどりすぽーつせんたー)(緑区相原郷一丁目)TEL052-891-7775
閑静な住宅地の中に平成４年竣工した。本格的なトレーニングジムをはじめ、温水プール・弓道場と観覧席のある競技場もあり、各種競技大会ができる総合屋内スポーツ施設である。

❿相原の庚申堂(あいはらのこうしんどう)(緑区相原郷一丁目)
諏訪社の東で鎌倉海道に庚申堂があり、手水鉢に観音堂と同じ「天保十二年丑三月」の銘が刻まれている。建立は日露戦争の頃と言われるが、詳しいことは不明である。

⓫相原の諏訪社(あいはらのすわしゃ)(緑区相原郷一丁目)
創建は不詳で神ノ倉の熊野社が古くからの氏神であったが、後に戦いの神として信仰の厚い諏訪明神を勧請した。そのため熊野社を山奥の神ノ倉へ移転し、諏訪上社の祭神の建御名方神(たけみなかたのかみ)が祀ってある。境内に山神社他多数が鎮座している。熊野社は最近まで諏訪社の氏子が管理していたが、東部地区が発展して独立した。

⓬相原山 浄蓮寺(真宗大谷派)(じょうれんじ)(緑区相原郷一丁目302番地)TEL052-895-6753
緑高校の南鎌倉海道を背に本堂・庫裡・鐘楼・山門がある。天正３年(1575)以前に今川義元の家人であった本多慶念が万福寺で出家し桶狭間の戦いで敗れた主君の霊を弔うために創建した。最初は中島橋の近くの草庵で光泉坊と称し、天正年間に現在地に移転し、文久２年(1862)に真宗大谷派となり現寺名に改めた。本尊は阿弥陀如来像(伝行基作)。言い伝えによると家康の家臣本多平八郎忠勝の出身地でもある。

⓭後山墓地と道標地蔵(うしろやまぼちとどうひょうじぞう)(緑区潮見が丘三丁目)
相原郷浄蓮寺の後山墓地の傍の早稲屋(緑高校前のバス停)の三差路にあり、「左なるみ道」「右みや道」と刻まれた道しるべが祀ってある。鎌倉海道が宿地から弘法堂の北を経てこの墓地の南を通り、浄蓮寺の横から諏訪社の表に出て鴻仏目交差点の方へ通じていた。

⓮観音山弘法堂と相原観音堂(かんのんざんこうほうどうとあいはらかんのんどう)(緑区潮見が丘二丁目)
緑市民病院交差点から相原郷へ向かう坂の途中に祀られていた弥陀堂で名を弘法堂に変えた。明治初年のとき観音堂(千手観音)は浄蓮寺山門隣接地に移されていたが、平成20年元の場所に観音堂を新築し移設された。手水鉢には「天保十二年丑三月」の銘が刻まれている。

◎南 二村山地蔵と鎌倉古道コース　約9km 約3時間

緑文化小劇場→みどりが丘公園→二村山→水広公園→鳴海東部小学校

❶緑文化小劇場(みどりぶんかしょうげきじょう)(緑区乗鞍二丁目)TEL052-879-6006
名古屋市の文化施設で平成13年要池をバックにし徳重交差点角に開館した。客席は446席、2階には会議室等が併設されている。

❷通曲公園(とおりがねこうえん)(緑区徳重二丁目)
3.2万㎡ある規模の大きい近隣公園で野球場やテニスコートが設置され、ランニングコースなども整備され二ツ池と呼ばれる調整池があり緑も多い。隣接地に学校やコミセン、商業施設もあり、駐車場も完備されている。

❸鶴ヶ沢霊園(つるがさわれいえん)(緑区鶴が沢二丁目)
明治の中頃に埋葬地として墓地になり、昭和57年周囲が住宅地として開発され、墓地を改修して鶴ヶ沢霊園として発足した。白土の交通事故で欠損した道しるべが無縁仏の中央に置かれている。

❹みどりが丘公園と勅使池(みどりがおかこうえんとちょくしいけ)(緑区鳴海町字笹塚・鏡田内、豊明市沓掛町)
豊明市との地境にあり周囲6kmある勅使池の西岸の60万㎡の地に名古屋市が一般市民用に36,000区画を分譲する都市計画墓地公園である。水辺の一帯がなだらかなスロープ状で、雑木林で囲まれた池には水鳥が戯れる落着いた雰囲気の明るい公園風墓地である。みどりが丘公園会館があり、休憩施設等が充実している。対岸は豊明市でまだのどかな風情を残している。

❺諸ノ木明神社(もろのきみょうじんしゃ)(緑区鳴海町諸ノ木)
江戸時代後期本陣職家であった西尾右衛門が諸ノ木を開拓し智鯉鮒大明神(知立神社)を勧請した。祭神は日子穂々手見命(ひこほほでみのみこと)他三神。蝗除け・雨乞い・安産の霊験があり、屋敷神として護持してきた。

❻二村山(ふたむらやま)(豊明市沓掛町皿池上)
鎌倉海道の名所で標高72mの尾東随一の景勝地で、平安時代以後旅人の歌に詠まれる。更科日記(1060)・十六夜日記(1279)・東関紀行(1242)・海道記(1223)などの文学作品や阿仏尼・源頼朝などの歌に詠まれて有名である。頂上に展望台があり、360度の見晴らしが利き、名古屋から三河にかけて展望ができ、遠くに御嶽山、伊吹山が見える。付近一帯は藤田保健衛生大学病院や豊明団地などに囲まれて昔の景観は無いが峠付近は森が残り、南西には往時の鎌倉海道の痕跡がある。また身替り地蔵尊・袈裟斬り地蔵尊、井上士朗・岳輅などの歌碑が多数有る。

❻二村山峠地蔵尊(ふたむらやまとうげじぞうそん)
頂上近くに地蔵堂があって三体の地蔵が安置されている。向かって左に頭の無い地蔵尊があり、背面に「大同二(807)」の刻印がある。いつの頃か旅人が盗賊熊坂長範に襲われた時に身替りとなって斬られ、肩から上が欠落したという身替りの伝説がある。他の二体の地蔵は江戸時代元文三年(1738)と明和三年(1766)のものである。

❻二村山袈裟斬り地蔵尊(ふたむらやまけさぎりじぞうそん)
山頂に胴体が斜めに斬られ上半身と下半身が別々になっている珍しい地蔵尊がある。下半身の背面に「古来仏依会大破建立之延宝七己未年(1679)」の刻があり、伝説をもとに建立されたものと言われ、また落雷で折れたとも言われる。

❼鎌倉海道(かまくらかいどう)京・鎌倉往還
鎌倉海道は源頼朝が建久三年(1192)鎌倉幕府を開いた頃できた。畿内の京より遠く離れた鎌倉で全国を支配するため幕府が全国へ通じる道を新設でなく、古来からの道を生かし地域の主要道をつなぎ整備した道である。鎌倉海道という古道は本来京・鎌倉往還又は東海道と言われたものである。街道が機能した当時は鎌倉海道とは呼ばれておらず、江戸時代の戯曲「小栗判官と照手姫」では美濃までこの街道を落ちのびたので小栗街道と言われた。近世諸街道が整備されるにつれ、それまでの鎌倉へ繋がる古道を鎌倉街道又は鎌倉海道と呼称した。

❽濁池(にごりいけ)(豊明市間米町)
藤田保健衛生大学の西にある4.2万㎡の大きな溜池。鎌倉海道は池の北側を通っていたが、今は南側の堤防に車道があり、大学の中から通じている。二村山で盗賊熊坂長範が人を斬った刀を池で洗ったところ見る見るうちに血で濁ってしまったとの言い伝えがある。

❾大清水のオヒジリ様(おおしみずのおひじりさま)聖観音菩薩石像(緑区大清水)
鎌倉海道を濁池から八ツ松の尾根伝いに進むと潮見坂の頂上近くの道端に聖観音菩薩の石像があった。坂を下ると右手に住宅地に入る道があり、最初の住宅の左裏手にオヒジリ様なる聖観音菩薩石像があり、「天保七丙申三月」の銘がある。江戸時代に古道を利用する旅人が安全を祈って建立したもので最近交通が頻繁となり近くの住宅地に移転した。

❿水広公園(みずひろこうえん)(緑区鳴海町水広下)
雑木林や溜池など自然を残した風情のある公園で多くの市民に愛されている。公園の中に大きな水広下池2.5万㎡があり扇川に注いでいる。この池は宝暦６年(1756)柴田屋新兵衛が開発した柴田新田の溜池として計画されたが挫折し、寛政４年(1792)代官井田忠右衛門により完成した。

⓫八ツ尾八幡社 蔵王権現(やつおはちまんしゃ)(緑区鳴海町八ツ松)
元は蔵王堂と言い、八ツ松と尾崎山の二字を取り、田圃だった敷田の氏神となった。古老によれば扇川に流れた蔵王権現像を山の麓に祀った。背後の鎮守の森がすばらしかったが、現在は参道のまわりわずかとなった。蔵王信仰は旅の守護神でもあり、鎌倉海道の古跡である。義経甲懸松があったとの言い伝えがあり、海道沿いの各所に松が植えられていた。

⓬扇川(おうぎがわ)(緑区の中央を流れている川＝２級河川天白川の一支流)
扇川の名は神ノ倉に在る熊野社の祭礼で稚児の川に落とした舞扇の美しさに因むと言われる。神ノ倉・黒石の神沢池に源を発し、古名を黒末川と言った。一方白土の大池に水源を発しやや南西に流れ神沢川と合流し、途中細口川・水広下川・滝ノ水川・旭出川などを合わせる。中島橋の下で桶狭間・有松より流れる手越川を合わせて、旧宿場町の南端を流れ、天白川に沿って水主ケ池を水源とする大高川と合流する。天明(1781～)の頃に天白川との分流が完成し、最近までは中堤防が河口まであったが、現在名四国道の天白扇川橋の手前で天白川に合流して名古屋港に注ぐ。長さ9.8km。中流域の両岸は草本の緑道で整備され桜並木や花壇、川には鯉、鮒や亀、岸にはアオサギ・カモ・サギドリなどが訪れて四季折々の風情が楽しめる。

⓭砂田橋(すなだばし)(緑区砂田一丁目)
扇川に架かる橋で、元の位置は少し下流で石神堂より扇川の北堤を通り、鳥澄で尾崎山へ渡って八ツ松へと通じていた。川は蛇行し、上流には水車小屋があった。宅地開発が進むにつれ川筋の改修が行われ、昭和53年に今の橋が竣工した。白土道(県道36号)と鎌倉海道(間米道)の分かれ口に地蔵があり、「右くつかけ道」「左あすけ道」と刻んだ道しるべがあった。今はなく、鴻仏目交差点の東北角に二代目の地蔵が置かれているが、道しるべになっていない。

⓮平手神明社(ひらてしんめいしゃ)(緑区平手南一丁目)
平手新田の氏神であり、江戸時代の承応２年(1653)に開発された新田村に勧請された。明治26年(1893)に造られた拝殿が老朽化したため、昭和62年(1987)に本殿・拝殿を造営している。境内には「平手新田造営奉賛碑」と「平手の町と神社の由来」の碑がある。

●平手の集落(ひらてのしゅうらく)(緑区鳴海町平手地内)
江戸時代の承応２年(1653)に白土道・扇川に沿って新田が開発され、平手新田(検地)として鳴海村より独立した集落である。新田開発は承応２年よりかなり遡り徳重・諸ノ木など鳴海東部の集落のひとつであった。明治９年に鳴海村に合併して小字となった。

⓯報恩寺と鳴海東部小学校(ほうおんじとなるみとうぶしょうがっこう)
報恩寺(緑区平手南一丁目902番地)TEL052-876-5773
鳴海東部小学校(緑区平手北二丁目901番地)TEL052-876-0320

江戸時代から平手の阿弥陀堂で尼僧が守っていた。明治には鳴海万福寺の平手説教所となり、昭和61年地元により往時の寺子屋の面影を残す庵寺の報恩寺となった。境内にかって平手交差点にあった道しるべがあり、「左白土」「右モロノキ」と刻まれている。この地では天保の頃庄屋の小島清兵衛が息子と二代寺子屋を開き、明治６年幼導学校を開設した。その孫の六代清兵衛は志を継ぎ東部小学校の揺籃期に訓導として30余年学童教育に情熱を傾けた。昭和2年教え子達が清兵衛先生顕彰碑を建立し、東部小学校西の鳴海商工会東部支所前に三忠魂碑と並んでいる。

◎東 熊野社と道しるべ 白土道コース　約6km 約2時間

緑文化小劇場→神沢池・要池→熊野社→大池→白土の道標

●徳重の集落(とくしげのしゅうらく)(緑区徳重)
この地は江戸時代長らく相原村の領地として認められているので室町時代頃からの集落ではなかろうか。明治以降の本格的な地図には相原郷・小坂・平手・徳重・白土と代表的な字名が印刷されており、土地の人は字名だけでなく地区名としてその周辺を含めて呼んでいた。地下鉄桜通線が延伸されて東部の交通拠点になり、区役所支所も進出し、将来東部住宅地の発展の拠点になる地である。

❶神沢池・要池(かみさわいけ・かなめいけ)
神沢池は1.5万㎡でまだ自然が残って里山の風情が感じられる。要池は3.5万㎡の大きな池だったが、コンクリートで固められた調整池となった。扇川の一源流の神沢川に繋がって要にある池で要池と言う。自然が一杯の池で、戦後しばらく水車小屋があった。付近の乗鞍・黒石・神沢では昭和40年代始め多くの窯跡の発掘調査が行われ、奈良から室町時代の須恵器等が多数発掘された。鳴海はこのような窯跡が50余ヶ所知られている。

❷鳴海配水場(なるみはいすいじょう)鳴海配水塔(緑区桃山四丁目)
昭和57年に名古屋市の東南部に配水するために標高90mの住宅地に突如現れた巨大構造物で、空飛ぶ円盤かと見間違えるようなユニークな外観で緑区の数少ないシンボルタワー。円盤部は水槽(12,000㎡)。

❸熊野社と神ノ倉(くまのしゃとかんのくら)(緑区鳴海町神ノ倉)
神ノ倉の神は熊野社を指し、地名の由来はこの神社のある山が神の鎮まる座、御神座の山を呼んだことによる。古名の字名に伊副ヶ根(いふがね)祝ヶ根(いわいがね)とあるが、もともとイブクマノ神社の名で呼ばれていた伝承による。祭神は伊奘諾尊(いざなぎのみこと)・伊福利部連命(いふくりべむらじのみこと)で熊野三社に源がある。この地一帯は江戸時代に尾張藩の御林だった山で明治になり官林から民間に払い下げられ最近まで雑木林だった。近年開発され神社の社殿や参道が整備され昔の面影は無くなったが、3.7万㎡の特別緑地保全地区で桜並木は素晴らしい。参道入口に正観音堂があり、「右あすけ道」「左くまの権現道」の道しるべがある。

❸毘沙門天像(びしゃもんてんぞう)
熊野社本殿の裏から長い尾根道を進むと雑木林の中に毘沙門天の石造が建っている。建立記念の石碑によると大正10年(1921)1月岡崎市の久石エ門が長坂順治に彫刻させたと記している。ここから143段の急な階段を降りると毘沙門天参道入口に出る。

●白土(しろっち)(緑区白土)
岡崎街道の手前あたりで磨砂が採取され白土と言う。この地は鳴海の最北東に位置し東郷町との地境に当たる場所であり、また伊勢湾と三河湾との分水嶺の地でもある。

❹白土の道標１(しろっちのどうひょう)
白土の交差点の先の三差路にあった弘法と「左のかた」「□あすけ」の道しるべ観音が交通事故で欠損してしまい、古い台座に新しい観音と弘法を西100mの住宅の前に移転して建立した。欠けた観音は鶴ヶ沢霊園に祀られている。野方は4km程先の日進市赤池の北隣の集落である。

❺白土の道標２(しろっちのどうひょう)
旧道が岡崎街道に出るところの三差路に頭の欠けた道しるべがあり、「右ナルミ」「左ヲカサキ」とカタカナで記され、隣に新しい「右なるみ」「左をかざき」の道しるべがある。

❻大池(おおいけ)(緑区藤塚二丁目)
昔は赤松池と言っていた。鳴海の母なる扇川の源流である。

◎花・水・緑の公園通り(はなみずみどりのこうえんどおり)
鳴海山下の千句塚公園から始まり、新海池公園・滝の水公園と沿道の公園を結んで平手まで、平手から白土の大池を花いっぱいにする緑化に努めている。

参考資料
緑区誌、名古屋史ｼﾘｰｽﾞ緑区の歴史、緑区の史跡、名古屋の史跡と文化財、名古屋市史、中日新聞、毎日新聞、朝日新聞、緑区ホームサービス、旧街道のなぞに迫る、愛知県の歴史散歩、愛知百科事典

・各散策コースにバス停留所を表示してありますので御利用ください。